

無農薬・無化学肥料栽培

微生物・天然生体成分が植物の体調を整え治療！



【土母シリーズの特徴】

※植物が生育しやすい環境を整える！

※虫とカビ病に負けない環境を作る！

※微生物がカビ病に負けない体力を作る！

※水溶性カルシウムが植物の体調を整える！

※微生物が植物の免疫力を増強する！

■植物活性剤 土母(どうも) 500ml / 1L / 4L / 10L



主成分は光合成細菌という微生物です。光合成細菌は土中で有益な微生物を増殖させる作用があり、土の生態系はバランスがよくなり、連作障害を改善します。光合成細菌は受精・花芽形成・着果を促進するアミノ酸や核酸などの生理活性物質を代謝します。

■植物活性剤 土母虫君(ともむしくん) 100ml

※希釈液は作り置きせずに使って下さい。



主成分は天然生体成分の植物性脂肪酸塩です、植物にやさしく環境にやさしい虫とカビ病に使う植物活性剤。カビ病の発生前、虫の発生初期から使用します、虫には直接液がかかるようむらなくていねいに散布します、葉や茎にまんべんなく広がり浸潤します。

■植物活性剤 土母君(ともくん) 100ml



主成分はトリコデルマ菌です。植物に散布すると微生物が目覚めて活性化、カビ病に負けない体力を作ります。※農薬=殺菌剤との混用はできません。

■植物活性剤 土母燦(ともさん) 200ml



主成分は水溶性有機カルシウムです。カルシウムが欠乏すると植物にさまざまな障害が発生します。欠乏状態の場合は葉裏へ霧水を散布通常は薄めた液を根元へ与えます。



■(微生物) 混合有機肥料 有果土(よかと) 500g / 1kg

施肥後すぐに分解特性に優れた微生物が活性化、土壌のバランスを整えます。水分に触れると微生物が目覚めます、効きめが早く長期間効き続けます。有効微生物が活性化すると、根と共生し栄養を供給します、植物の免疫力を活性化させ、連作障害に負けない健康で病気に強い植物を育てます。植物の花色は鮮やかに、野菜や果物の食味が向上、美味しく安全な作物を収穫できます。

土母シリーズを使って無農薬・無化学肥料栽培に挑戦してみてください、素晴らしい効果が実感できます！！

製造元 株式会社環境セラピー

【販売店】

株式会社ウエサカ

電話: 0123-72-1010 FAX: 0123-72-4145

夕張郡栗山町朝日3丁目97番地

■新商品開発・試験農場での栽培試験

アブラムシ・カビ病に負けない環境！

とほひしくん 土母虫君



植物活性剤
内容量 100ml

新商品「土母虫君」

【特徴】

- ・植物性脂肪酸塩は植物から抽出した天然生体成分です。
- ・有果土・土母・土母君・土母燐のみを使用した「無農薬、無化学肥料栽培農場」で「土母虫君」を使用して検証しました。
- ・虫の発生初期から使用、まんべんなくいてねいに散布します。
- ・カビ病の発生前に週1回程度使用（本品はアルカリ性です）。
- ・毒性はありません。花、野菜、果樹等に幅広く使用できます。
- ・開花した花に散布してもいたみが少なく収穫まで使用できます。

【使用法】

- ・100倍希釈で使用します（キャップ1杯を約500mlの水で希釈）。
- ・葉・茎にまんべんなく散布、虫には液が直接かかるよう散布します。
- ・温度が低くなると粘度が高まる性質があります、暖めてよく振ってからご使用ください、融解後の成分に影響はありません。
- ・薬剤等と混用しない、希釈後はすぐに使用し作り置きはしない。



・新商品「土母虫君」の散布試験

キュウリの葉裏に発生したアブラムシへの散布実験の写真です。キュウリの葉裏は葉脈で仕切られているうえに毛羽立っています、その為散布液のほとんどが流れ落ちてしまいます。農薬など化学合成物質を使用しない方法で検証を繰り返した結果、植物性脂肪酸塩での活性効果を確認することができました。キュウリでは苦労しましたがバラや鉢花花木では容易に活性効果を確認できます。左の写真はキュウリの葉裏に散布、活性化によりアブラムシの気門封鎖を確認した画像です。

【栽培試験農場】

- ・栽培試験農場では無農薬・無化学肥料栽培を実証する目的で有果土（微生物混合有機肥料）、土母（光合成細菌）、土母君（トリコデルマ菌）、土母燐（水溶性カルシウム）、新商品土母虫君（植物性脂肪酸塩）を使用して有用微生物と天然生体成分による栽培をしています。それは、①微生物の働きによる分解特性や生理活性を応用し微量の有機物で植物を育成する技術、農薬や化学肥料を必要としない環境保全型の農法。②微生物が植物の生育環境を整え、成長を促進、免疫力を増強する環境保全型の栽培技術。③安全、安心、健康を享受する植物の生産です。土壌のバランス（微生物の生態系）を整えることにより土壌環境を改善し病気等の発生原因も解消しました。
- ・土壌環境を改善し生育障害の軽減を実施している農業生産者の皆様からは高い評価をいただいています。



- ・下記の鉢植えには、有果土 20g、土母 200倍希釈液週1回、花木には有果土 100gを施肥。
 - ・鉢植えの植物（草花）などは次々に花芽をつけ追肥なしでも長期間咲き続けます。
 - ・試験農場の野菜は移植時に元肥として有果土を1回のみ施肥、鉢植えの花にも上記記載の通り1回だけ施肥。
- ※プランターやポットで野菜（特に果菜類）やバラ等を育てる場合は露地栽培と違い根の成長が器により制限されます、栽培する植物に合わせ施肥量を増やしてください。

インパチェンス



ユーフォルビア



ポテンフィラ



ヤマボウシ

